

## 串木野新港と甑島を結ぶ甑島航路の存続に関する決議

甑島と串木野を結ぶ航路は、開設から 100 年を超える歴史の中で甑島島民に支持され、生活の足として定着している。同航路は、島民の生活航路として重要な生活基盤であると同時に、永年の交流の歴史により、いちき串木野市の経済、文化等さまざまな分野で大きな役割を果たしてきた。

甑島と本土を結ぶ航路については、これまで阿久根や川内等さまざまな地域との航路開設が模索されてきた経緯があるが、気象条件や地理的特性に伴う安全性、利便性等により串木野港との航路が開設され、その優位性から長期にわたり安定的に運営されてきた。

新聞報道等によると、平成の大合併による市町村の再編に伴い、航路のあり方についてもさまざまな議論が行われ、甑島航路についても市町村の枠組みに合わせて、川内港との航路設定が模索されているようである。

離島をはじめ地域社会は、少子高齢化や過疎化の逆風の中、一段の経済合理性を求めた行財政改革とともに地域の活性化等、生き残りをかけたさまざまな取組みを進めている。

甑島島民の重要な生活基盤であるとともに、いちき串木野市の社会経済にも深く根ざした甑島航路が、変更されるような事態になると、島民の生活はもとより、いちき串木野市の地域経済、今後の市政運営にも極めて大きな支障と混乱を引き起こすことが危惧される。

よって、いちき串木野市議会は、串木野新港と甑島を結ぶ航路の重要性を再認識し、同航路の存続を求めここに決議する。

平成 19 年 3 月 28 日